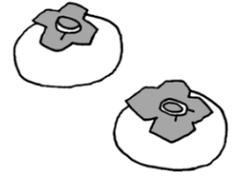




がっこう
学校だより
がっこう
11月号



令和4年10月31日
よこはましりつみつざわしょうがっこう
横浜市立三ツ沢小学校

みつざわ でんとう みつざわ こ うんどうかい
三ツ沢のよき伝統「三ツ沢っ子がやき運動会」

こうちょう たかぎ のぶゆき
校長 高木 伸之

学校の柿が大きく実って秋空に映えています。深まる秋に後期がスタートしました。

10月に入ったころ、廊下で、1年生の児童4名が、互いの顔を見合いながらスローガンに振りつけをつけて笑顔で唱えている姿に出会いました。運動会をととても楽しみにしているのだなあとうれしく思いました。今年度は、分散登校もなく、運動会実行委員の子どもたちも、早い時期から充実した活動に取り組みました。スローガンやマスコット、ダンス、応援など、みんなで決め、何度も練習をして本番を迎えるという計画的な取組となりました。

3年ぶりに5・6年生児童による前日準備も実施しました。2年生の児童が作った旗を万国旗のように並べて取り付けたり、一つひとつの用具を確認したりして、誰一人時間をもて余すことなく、とても丁寧に活動している姿に感心しました。1年生のカウントダウンの掲示板、3年生の入場門、4年生の昇降口の飾り、5・6年生の支える活動、どれも手作りの温かさが感じられました。

各学年の演技や競技も仕上がりが早く、学年ごとに見合う活動を多く設定しました。そのことが、上級生へのあこがれの気持ちをもつことにつながっています。前日に6年生の演技を見た3年生は、「みんなが揃っていてすごかったです。早く6年生になってソーランを踊りたいです。」とか、「私もこのように踊れる6年生になりたいです。」5年生は「来年は僕たちがかっこよく踊り、伝統を受け継ぎたいです。」「踊りだけでなく、意思や姿勢も受け継ぎたいです。」など思いを表していました。6年生のソーラン節は「三ツ沢の伝統」と呼ぶにふさわしく、多くの児童が「あのような6年生になりたい」と思うことから、三ツ沢小で学ぶことの意義の一つになったと確信しています。

そして、20日、この上ない秋空の下、「三ツ沢っ子がやき運動会」を開催することができました。1年生のチェッコリ玉入れは、途中でかごが倒れるというハプニングがありましたが、投げる姿がかわいく、ねらって投げるのがよく身に付いていました。2年生のマスコットはととてもリズムカルで、みんな笑顔で楽しく踊ることができました。3年生の団体競技は時間を守るというルールがしっかり守られ、まさにフェアプレーの精神がありました。引き分けの判定に会場が盛り上がりました。4年生のエイサーは、太鼓の音が揃っていて心地よく響き、体を極限まで伸ばしたり曲げたりした動きで、とても勇ましい踊りとなりました。5年生の綱引きは、みんなで協力して、作戦を立てての取組でしたが、最後は力と力の戦いとなり白熱した競技となりました。運動会を終えた子どもたちの顔は、なんだか凛々しく見えました。



学校の学びには一人ひとりにドラマがあります、そのドラマの中で一人ひとりが主人公として大きな成長が感じられた運動会でした。保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

